	一般的名称	報告の概要
130	ジクロフェナクナトリウム	インドメタシンン、ジクロフェナク、ケトプロフェンの使用により、心筋梗塞発症のリスクが上昇することが示唆された。
131	テガフール・ウラシル	非小細胞肺癌患者に対する手術+術後化学療法(ｼｽﾌﾟﾗﾁﾝ/ﾋﾞﾝﾃﾞｼﾝ/ﾃｶﾞﾌｰﾙ・ｳﾗｼﾙ)において、Grade3-4の副作用として白血球減少(Grade4 2例)、食欲不振3例、悪心・嘔吐2例、脱毛1例が報告された。
132	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌に対するirinotecan/oxaliplatin/fluorouracil /low dose folinic acid併用療法のPhase Ⅱ試験において、発熱性好中球減少症とGrade4 の下痢をおこし、死亡に至った例が1例報告された。
133	アセトアミノフェン	急性ウイルス性肝炎患者にアセトアミノフェンを使用すると、症状を憎悪させる可能性がある。
134	塩酸モキシフロキサシン	ドイツのFederal Institute for Drugs and Medical Devicesに1993年～2004年に報告されたフルオロキノロン系抗菌剤に関連するアナフィラキシー関連事象を調査したところ、診断が妥当で因果関係の明らかな症例166例中、モキシフロキサシン90例(54%)、レボフロキサシン25例(15%)、シプロフロキサシン21例(13%)、オフロキサシン16例(10%)での報告であった。
135	ロルノキシカム	ケトプロフェン、アセトアミノフェン、ジクロフェナク、インドメタシン、ロルノキシカムの使用により、骨折発現のリスクが上昇することが示唆された。
136	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者に対するFluorouracil/Leucovorin/Oxaliplatin併用療法における時間修飾療法と従来のFOLFOX2を比較したPhase Ⅲ試験において、治療関連死がそれぞれ2例、1例認められた。 また、Grade3-4の毒性としては好中球減少症(7.9%,25.3%)、血液学的毒性(11.2%,29.3%)、下痢(29.5%,11%)、粘膜炎(14.8%,6.8%)、手足症候群(11.9%,1.8%)、無力症(15.8%,7.5%)、末梢神経障害(27%,29%)であった。
137	インターフェロン　ベーター1a(遺伝子組換え)	多発性硬化症の患者2例がそれぞれインターフェロンベータ1b,1aで治療したところ、綿花状白斑を伴った無症候性網膜症を発症した。
138	インターフェロン　ベーター1a(遺伝子組換え)	インターフェロンベータ1aの研究において、抗インターフェロン中和抗体陰性患者に比べて、中和抗体陽性患者において、多発性硬化症の再発やMRI活性の治療効果が減少する傾向が認められた。
139	デキサメタゾン	市中病院から報告されたニューモシスティス肺炎患者11例のうち、5例はデキサメタゾンを全身投与されていた。
140	ジクロフェナクナトリウム	インドメタシンン、ジクロフェナク、ケトプロフェンの使用により、心筋梗塞発症のリスクが上昇することが示唆された。
141	塩酸イリノテカン	グルクロン酸転移酵素遺伝子多型(UGT1A1*28)を持つ悪性固形癌患者において、塩酸イリノテカンによるGrade2以上の遅延性下痢症発生頻度が上昇することが示唆された。
142	ジクロフェナクナトリウム	23報のスタディのシステマティックレビューから、ジクロフェナクは通常投与量でも心血管イベントのリスクを上昇させることが示唆された。
143	エポエチンβ(遺伝子組換え)	進行性頭頸部癌を有する貧血患者におけるランダム化二重盲検試験において、エポエチン受容体陽性群に対するエポエチン　ベータ投与でlocoreginal progression-free survivalがプラセボに比べて有意に低下した。
144	イブプロフェン配合一般用医薬品	インドメタシン、ジクロフェナク、ケトプロフェン、イブプロフェンの使用により、心筋梗塞発症のリスクが上昇することが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
145	スルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウム	一医療機関において構築した薬剤性副作用情報システムを用いた解析において、薬剤全般における抗生剤の肝障害Odds比が0.7であるのに対し、スルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウムは2.36と高値であった。
146	ジクロフェナクナトリウム	23報のスタディのシステマティックレビューから、ジクロフェナクは通常投与量でも心血管イベントのリスクを上昇させることが示唆された。
147	塩酸イリノテカン	グルクロン酸転移酵素遺伝子多型(UGT1A1*28)を持つ悪性固形癌患者において、塩酸イリノテカンによるGrade2以上の遅延性下痢症発生頻度が上昇することが示唆された。
148	バルプロ酸ナトリウム	抗てんかん薬を投与された群では、再生不良性貧血のリスクが高まることが示唆された。
149	テガフール・ウラシル	進行再発大腸癌患者に対するテガフール・ウラシル/ホリナートカルシウム/塩酸イリノテカン併用療法において、2コース目までにGrade3以上の有害事象として下痢・嘔吐・倦怠感が2例に認められた。
150	インターフェロン　ベーター1a(遺伝子組換え)	インターフェロン　ベータの投与を受けた多発性硬化症患者における中和抗体産生は、効果の減弱や病態の進行を早めることが示唆された。
151	インターフェロン　ベーター1a(遺伝子組換え)	初発脱髄性イベントを経験したハイリスク患者に対するインターフェロンベータ治療において、入院に至った有害事象は多発性硬化症再発、深部静脈血栓症、感染症/敗血症、上室性頻脈、自殺企図、形成外科手術、子宮頚部癌であった。
152	エストラジオール	閉経後ホルモン療法を受けている患者において、一過性脳虚血発作のリスクが高まることが示唆された。
153	エストラジオール	長期間のエストロゲン単独あるいはエストロゲン+プロゲスチン併用療法によって、卵巣癌発症リスクが高まることが示唆された。
154	シクロホスファミド	幹細胞動員や骨髄破壊的全処置にシクロホスファミドを含む治療を行い、自己造血幹細胞移植を受けている急性進行期の多発性硬化症患者において、脳萎縮の進行がみられた。
155	メトトレキサート	尿路上皮癌患者を対象としてGemcitabine/Cisplatin併用療法とMethotrexate/Vinblastine/Doxorubicin/Cisplatin療法を比較したところ、重篤な副作用として後群で敗血症が2例認められ、うち1例が死亡に至った。
156	インターフェロン　ベーター1a(遺伝子組換え)	24歳女性の多発性硬化症患者にインターフェロン　ベーター1aを投与したところ、重度の黄疸、劇症肝炎、トランスアミラーゼ上昇、ビリルビン上昇がみられた。
157	インターフェロン　ベーター1a(遺伝子組換え)	34歳女性患者においてインターフェロン　ベーター1a投与開始後、急速に播種性神経症状の悪化がみられ、虚血性脳梗塞に至った。
158	エタネルセプト(遺伝子組換え)	活動性リウマチ患者を対象とした1年間のプラセボ対照無作為化二重盲検試験および引き続き行われたオープンラベル長期継続試験において、エタネルセプト+アバタセプト群でエタネルセプト+プラセボ群より多くの有害事象および重篤感染症が認められた。
159	イブプロフェン含有一般用医薬品	血管浮腫を発症した患者の医薬品服用歴を調査したところ、イブプロフェンは血管浮腫のリスク上昇と関連することが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
160	ソマトロピン(遺伝子組換え)	小児がん患者において、成長ホルモン(GH)の投与を受けた群は、2次性新生物発生率が上昇することが示唆された。
161	塩酸ゲムシタビン	ヒト乳癌細胞とヒト卵巣癌細胞を用いたin vitro試験において、ゲムシタビンとパクリタキセルを同時投与あるいはゲムシタビンを前投与した場合、パクリタキセル単剤投与と比較して細胞毒性の低下が認められた。
162	アルテプラーゼ(遺伝子組換え)	ラット正常皮質に組織プラスミノーゲンアクチベータ溶液を潅流したin vivo実験において、組織プラスミノーゲンアクチベータが血液脳関門の破壊及び神経細胞障害を引き起こすことが示唆された。
163	バルプロ酸ナトリウム	胎内でバルプロ酸ナトリウムに暴露された胎児は奇形率が高く、その作用は用量依存的であることが示唆された。
164	アジスロマイシン水和物	活動性トラコーマを有する小児及びその家族にアジスロマイシンを投与したところ、トラコーマ再感染率の上昇が認められた。
165	ガバペンチン	扁桃摘出の術後痛に対してロフェコキシブとガバペンチンを併用すると、浮動性めまい、歩行障害、嘔吐の発症率が高まることが示唆された。
166	ナプロキセン	インドメタシンン、ジクロフェナク、ケトプロフェン,イブプロフェンの使用により、心筋梗塞発症のリスクが上昇することが示唆された。
167	ワルファリンカリウム	ワルファリンによる治療を受けた非弁膜症性心房細動患者のフォローアップにおいて、12例の大量出血性合併症(1例;致命的な出血、6例;消化管出血、3例;頭蓋内出血)が認められた。
168	アルテプラーゼ(遺伝子組換え)	ラット正常皮質に組織プラスミノーゲンアクチベータ溶液を潅流したin vivo実験において、組織プラスミノーゲンアクチベータが血液脳関門の破壊及び神経細胞障害を引き起こすことが示唆された。
169	リスペリドン	リスペリドンを含む抗精神病薬薬投与群の糖尿病発現リスクは、非投与群に比べて高まることが示唆された。
170	ジクロフェナクナトリウム	23報のスタディのシステマティックレビューから、ジクロフェナクは通常投与量でも心血管イベントのリスクを上昇させることが示唆された。
171	アセトアミノフェン	インフルエンザに罹患した乳幼児において、アセトアミノフェンの使用は意識障害の発症リスクを高めることが示唆された。
172	デカン酸ハロペリドール	QT延長作用を有することが知られる非心血管系薬剤であるハロペリドールが、突然死のリスクを高めることが示唆された。
173	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬服用者は、耳鳴り、めまい、IPVS(刺激性末梢前庭症候群)の発現リスクを高めることが示唆された。
174	メトトレキサート	中枢神経原発リンパ腫に対する高用量化学療法に伴う自家幹細胞移植+多分割全脳放射線照射のPhase II試験において、高用量メトトレキサート投与後に肝障害で1例死亡したことが報告された。
175	メトトレキサート	フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病患者に対するメトトレキサートを含むイマチニブ併用強化療法後に、血球減少症を発症し、敗血症により3例が死亡した。

	一般的名称	報告の概要
176	ホリナートカルシウム	進行結腸直腸癌患者に対するBevacizumab/Fluorouracil/Leucovorin併用療法により、脳血管虚血による死亡と、Grade4の毒性として好中球減少症、嘔吐、鼻出血、肺塞栓症が報告された。
177	フマル酸ケトチフェン	健常被験者に対してエピナスチンとケトチフェンの認知機能への影響をスタンバーグ課題、2バック課題で検討したところ、エピナスチンと比較してケトチフェンで反応時間の増加が認められた。
178	メトトレキサート	PUVA長期臨床試験を実施した乾癬患者1380例のプロスペクティブコホート研究において、36ヶ月以上のメトトレキサート投与患者でリンパ腫発現率の有意な増加が認められた。
179	ケトプロフェン	ACE阻害剤またはアンジオテンシンⅡ受容体阻害剤と利尿剤およびNSAIDsの3剤併用での腎不全報告が21例報告され、リスク因子は高齢者、以前からの腎機能障害や脱水状態であったとの報告。
180	イブプロフェン含有一般用医薬品	非選択的COX-2阻害剤による急性心筋梗塞に関する14文献をメタ分析したところ、ジクロフェナクとイブプロフェンの相対危険度と発症リスク上昇が見られた。
181	リツキシマブ（遺伝子組換え）	一医療機関における非ホジキンリンパ腫患者を対象としたレトロスペクティブ研究において、化学療法治療歴およびリツキシマブ5回以上投与においてDelayed-onset cytopeniaの発現率が高かった。
182	下垂体性性腺刺激ホルモン（1）	生殖補助技術（ART）による妊娠は、自然妊娠と比較して流産率、子宮外妊娠率、多胎率、早産率の率が高くなることが示唆された。
183	硫酸イソプロテレノール・臭化メチルアトロピン配合剤	妊娠中のサルにデキサメタゾンを経口投与したところ、新生仔の海馬歯状回で細胞増殖阻害のおこる可能性が示唆された。
184	シクロホスファミド	GSTP1コドン105変異型の全身性エリテマトーデス患者で、シクロホスファミドのパルス療法による骨髄毒性と胃腸毒性のリスクの上昇が示唆された。
185	ガドジアミド水和物	文献、著者が収集した情報により、ガドジアミドの使用が腎原性繊維症（NSF）発現に関与している可能性があると示唆された。
186	人血清アルブミン	肝臓移植患者に対するアルブミン投与により、全ての合併症と心血管系合併症の増加が認められた。
187	エストラジオール	閉経後ホルモン療法を受けている患者において、一過性脳虚血発作のリスクが高まることが示唆された。
188	エストラジオール	長期間のエストロゲン単独あるいはエストロゲン+プロゲスチン併用療法によって、卵巣癌発症リスクが高まることが示唆された。
189	リツキシマブ（遺伝子組換え）	2002年9月1日から2005年6月30日にリツキシマブ+化学療法を施行した患者97例を分析したところ、非好中球減少性感染症の発現頻度がリツキシマブ+フルダラビンを含む併用療法患者において有意に高くなった。
190	リツキシマブ（遺伝子組換え）	一医療機関において初回治療を完遂したCD20陽性B細胞性リンパ腫患者107例をレトロスペクティブに調査したところ、多変量解析においてR-CHOPあるいはR-CVP群の高用量レジメンの使用が遅発性好中球減少症の独立したリスクファクターであることが示唆された。
191	ジクロフェナクナトリウム	変形性関節症または関節リウマチ患者にエトリコキシブまたはジクロフェナクを長期投与すると、上部消化管の臨床的イベント（穿孔、出血、閉塞、潰瘍）発生率は、ジクロフェナク投与群で高くなることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
192	メシル酸ブロモクリプチン	病的賭博とリビドー亢進または性欲過剰は、ドパミン作動薬のクラス効果であることが示唆された
193	テガフール・ウラシル	転移性結腸直腸癌患者に対するirinotecanまたはoxaliplatinをベースとした併用療法においてGrade4の下痢、貧血、好中球減少症、感染症、静脈血栓症と4.9%の治療関連死がみられた。
194	リバビリン	2006年9月30日までにリバビリン投与を受けた女性患者の妊娠481例とリバビリン投与を受けた男性患者の女性パートナーの妊娠1608例、計2089例のうち、先天異常:43例、小児疾患:11例、人工中絶:336例、胎児死亡:152例が認められた。
195	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	自己免疫疾患を有する患者において、静注イムノグロブリン関連血栓性合併症の発症率が高いことが示唆された。
196	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	SU剤または外因性インスリン製剤を使用している2型糖尿病患者では、メトホルミン使用患者に比べ癌関連死亡率が上昇することが示唆された。
197	バルプロ酸ナトリウム	抗てんかん薬を投与された群では、再生不良性貧血のリスクが高まることが示唆された。
198	シクロホスファミド	ウェゲナー肉芽腫症患者180例を対象としたplacebo-control trialにおいて、エタネルセプト群で6例の固形腫瘍例が認められ、全例でシクロホスファミドが併用されていた。
199	メトトレキサート	メトトレキサート中心の化学療法を受けた中枢神経原発性悪性リンパ腫(PCNSL)患者57例を対象とした追跡調査において、40例が死亡した。
200	塩酸メフロキン	メフロキンを服用した健康白人旅行者89例を対象としたプロスペクティブコホート研究において、精神神経系副作用が女性より男性で高頻度であり、MDR(multidrug resistance gene)1の遺伝子型1236TT,2677TT,3435TTを有する場合、より高リスクであることが報告された。
201	エストラジオール	膣エストロゲンクリームの使用が、尿失禁発現のリスク因子の1つとして示唆された。
202	リン酸オセルタミビル	リン酸オセルタミビル投与を受けた患者326例に対する聞き取り調査において、31%(カプセル41%、ドライシロップ27%)の患者で副作用が疑われ、25%は消化器症状であった。
203	クエン酸フェンタニル	薬物中毒症例を解析した結果、アセトアミノフェン、フェンタニル、モルヒネ、クロルフェニラミン、コデイン、ケタミン、ベラパミルの中毒による死亡例があった。
204	ボリコナゾール	健康女性16例でのボリコナゾールとノルエチステロン・エチニルエストラジオール併用体内動態試験で、それぞれの単剤服用群と比べて両剤の血中濃度が上昇することが示唆された。
205	アリルエストレノール	プロゲステロン、合成プロゲスチン、バルプロ酸ナトリウムはポルフィリン症を悪化させることが示唆された。
206	塩酸ベラパミル	薬物中毒症例を解析した結果、アセトアミノフェン、フェンタニル、モルヒネ、クロルフェニラミン、コデイン、ケタミン、ベラパミルの中毒による死亡例があった。
207	イブプロフェン含有一般用医薬品	妊娠初期にNSAIDsを処方された場合、新生児での先天異常、特に心臓中隔欠損のリスクが高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
208	カペシタビン	進行乳癌患者105例を対象としたprospective pilot studyにおいて、Tymidylate synthase 5'class4でGrade3－4の副作用発現率が高い傾向が見られ、また単一変量解析においてTymidylate synthase 5'class4が奏効期間の短縮因子として検出された。Dihydropyrimidine dehydrogenaseの変異を持つ1例で血液障害による死亡例が報告された。
209	レボドパ・塩酸ベンセラジド	ラットにおいて、レボドパ・塩酸ベンセラジドとアルミニウム性添加物含有漢方胃腸薬の併用投与により、レボドパのAUCが低下することが示唆された。
210	レノグラスチム(遺伝子組換え)	antithymocyte globurin/cyclosporine療法を受けた重度再生不良性貧血患者363例と非投与例477例を対象としたレトロスペクティブ研究において、G-CSF投与群の10年累積MDS/AML発生率が10.9%と非投与群(5.8%)に比べて有意に高く、リスクファクターとしてG-CSFが抽出された。
211	硫酸ビンクリスチン	進行性濾胞性リンパ腫患者401例を対象としたランダム化比較試験において治療後平均92ヶ月間の追跡調査中にCHVP(ｼｸﾛﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ+ﾄﾞｷｿﾙﾋﾞｼﾝ+ﾃﾆﾎﾟｼﾄﾞorｴﾄﾎﾟｼﾄﾞ+ﾌﾟﾚﾄﾞﾆｿﾞﾝ)+インターフェロン療法群で骨髄異形成症候群2例、2次性急性骨髄性白血病2例、肺癌4例、口腔癌3例、腎癌1例、膀胱癌1例、食道癌1例が認められ、CHOP(ｼｸﾛﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ+ﾄﾞｷｿﾙﾋﾞｼﾝ+ﾋﾞﾝｸﾘｽﾁﾝ+ﾌﾟﾚﾄﾞﾆｿﾞﾝ)+全身放射線照射+ASCTでの高用量治療(ｼｸﾛﾎｽﾌｧﾐﾄﾞ+ｴﾄﾎﾟｼﾄﾞ+G-CSF)群で2次性骨髄異形成症候群2例、口腔癌3例、ホジキン病2例、胃癌2例、乳癌1例、腎癌1例が報告された。
212	メトトレキサート	60歳未満の中枢神経系原発リンパ腫患者64例に対するメトトレキサートを中心とした治療において、Grade3/4の血液毒性18例、腎毒性2例、神経毒性6例がみられ、毒性により2例が死亡した。
213	ホリナートカルシウム	食道癌、胃癌、膵癌に対するCisplatin/Fluorouracil/Leucovorin併用療法により2例が好中球減少性敗血症、1例が腎不全、1例が重度の下痢で死亡した。
214	イソニアジド	2施設の外来で2003年1月1日から2004年12月31日にイソニアジドによる潜在性結核の治療を開始した日本人の診療記録の後ろ向き研究において、397例中59例(14.9%)で何らかの肝障害副作用がみられ、日本人においても欧米人と同等の頻度で肝障害が発生しうることが示唆された。
215	リスペリドン	抗精神病薬の使用により、高脂血症の新規発症リスクが高まることが示唆された。
216	ビタミンB12・葉酸含有一般用医薬品	高用量の葉酸接取は乳癌発症リスクを高めることが示唆された。
217	ロスバスタチンカルシウム	HIV患者にロスバスタチンカルシウムとロピナビル・リトナビルを併用すると、ロスバスタチンカルシウムのAUC、Cmaxが上昇することが示唆された。
218	ワルファリンカリウム	頭蓋内動脈の狭窄患者において、症候性頭蓋内疾患に対するワルファリンとアスピリンの無作為化臨床試験により、ワルファリンの有益性が認められなかった。
219	ジフェンヒドラミン・ジプロフィリン	薬物中毒症例を解析した結果、アセトアミノフェン、フェンタニル、モルヒネ、クロルフェニラミン、コデイン、ケタミン、ベラパミル、ジフェンヒドラミンなどの中毒による死亡例があった。
220	メトトレキナート	ドキソルビシン、シスプラチン、メトトレキサート、イホスファミドで治療した四肢の局所骨肉腫患者755例のカルテをレビューしたところ、4例が心疾患、2例が転移性疾患で死亡し、16例に二次性悪性腫瘍が認められ、うち8例が二次性悪性腫瘍のために死亡したことがわかった。
221	インターフェロン　ベーター1a(遺伝子組換え)	多発性硬化症患者に対するインターフェロン　ベータ-1a投与により、骨ホメオスタシスに関与するタンパク量やmRNA量が変化する可能性が示唆された。

	一般的名称	報告の概要
222	メトトレキサート	初期乳癌に対するCMF（シクロホスファミド+メトトレキサート+フルオロウラシル）単独療法とエピルビシン+CMF併用療法を比較した試験において、計20例の治療関連死が認められた。
223	オメプラゾール	オメプラゾールとボリコナゾールを併用すると、オメプラゾールのAUC、Cmax増加、t1/2の延長がみられることが示唆された。
224	レボホリナートカルシウム	切除不能・転移性胃腺癌または胃食道接合部腺癌患者を対象としたcetuximab+FOLFIRI併用療法の第2相試験において、発熱性好中球減少症で1例死亡した。
225	フィルグラスチム（遺伝子組換え）	antithymocyte globurin/cyclosporine療法を受けた重度再生不良性貧血患者363例と非投与例477例を対象としたレトロスペクティブ研究において、G-CSF投与群の10年累積MDS/AML発生率が10.9%と非投与群(5.8%)に比べて有意に高く、リスクファクターとしてG-CSFが抽出された。
226	ヘパリンナトリウム	ヘパリン治療を受けた患者の5%未満に遅発性ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）が認められ、HITの治療としてfondaparinuxを使用した例が報告された。
227	オメプラゾール	オメプラゾールとボリコナゾールを併用すると、オメプラゾールのAUC、Cmax増加、t1/2の延長がみられることが示唆された。
228	塩酸セルトラリン	塩酸セルトラリン投与群とプラセボ投与群において、自殺念慮や自殺行動の発現リスクの増加は見られなかった
229	ホリナートカルシウム	進行・転移性結腸直腸癌患者82例に対するcetuximab+FOLFOX6併用療法により、急性心筋梗塞、肺炎から続発した呼吸不全、原因不明の突然死による3例の死亡が報告された。
230	塩酸リトドリン	塩酸リトドリンの経口剤の早産管理に対する有効性がないことが示唆された。
231	エストラジオール	膣エストロゲンクリームの使用が、尿失禁発現のリスク因子の1つとして示唆された。
232	ジクロフェナクナトリウム	他のNSAIDs使用群と比べ、ジクロフェナク使用群は、胃粘膜障害及び潰瘍の有症率が高いことが示唆された。
233	非ピリン系感冒剤（2）	血中でフェンタニルが測定された112例の死亡例のうち、アセトアミノフェンとの併用に起因したとされる死亡例が2例、ジアゼパムとの併用に起因したとされる死亡例が11例あった。
234	ガドジアミド水和物	NSF（腎原性繊維症）の発現がガドリニウム造影剤に関連している可能性が示唆された。
235	塩酸フェキソフェナジン	健常人11例を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、イトラコナゾールとフェキソフェナジンの併用時の薬物動態を検討したところ、フェキソフェナジンのAUC,Cmaxが増加することが示唆された。
236	ガドペンテト酸メグルミン	塩酸リトドリンの経口剤の早産管理に対する有効性がないことが示唆された。
237	ガドペンテト酸メグルミン	膣エストロゲンクリームの使用が、尿失禁発現のリスク因子の1つとして示唆された。
238	ヘパリンナトリウム	①ドイツのデータベースによる検討（290例）、②未分化ヘパリン（UFH)と低分子ヘパリン（LMWH)の無作為化比較試験、③UFHとLMWHを比較した7つのプロスペクティブ試験の分析、の3つの検討から女性は男性に比べてヘパリン起因性血小板減少症の発現リスクが高いことが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
239	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	BRCA2変異キャリア女性において、経口避妊剤の長期使用により乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
240	ホリナートカルシウム	オキサリプラチンやイリノテカンを含む併用療法を受けた転移性結腸直腸癌癌患者142例を対象としたレトロスペクティブ調査により、4.9%が毒性により死亡した。
241	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用は、アキレス腱障害のリスクを高めることが示唆された。
242	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	低用量経口避妊薬の使用により、出血性脳卒中のリスクが上昇することが示唆された。
243	ガドジアミド水和物	NFD(腎原性皮膚硬化症)と診断された15例のうち、13例が剖検によりNFDと診断され、MRI造影剤を投与されていた。
244	セフトリアキソンナトリウム	セフトリアキソンナトリウムの配合変化試験において、アシクロビルと塩酸ニカルジピンで白濁沈殿が認められ、アシクロビルの24時間後残存率は64.1%にまで低下した。
245	エストロゲン〔結合型〕	てんかんを有する閉経後の女性において、ホルモン補充療法(HRT)によりてんかん発作の頻度が上昇することが示唆された。
246	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え	急性骨髄性白血病初回再発患者8例による三酸化ヒ素、オールトランスレチノイン酸、ゲムツズマブオゾガマイシン併用療法において、1例が敗血症により死亡した。
247	酢酸テリパラチド	Forteo投与患者において骨肉腫1例が報告された。
248	リン酸オセルタミビル	オセルタミビルの精神障害・神経系障害症例を製造販売業者のグローバル安全性データベースで集計したところ、1060例1358件の報告があり、うち86.6%は日本からの報告であった。また、65%が19歳未満の症例であった。
249	リン酸オセルタミビル	一医療機関における重症心身障害児病棟でリン酸オセルタミビルの予防投与を行なったところ、第1発症者発症後1－2日目に予防投与した10例中3例が発症し、3－4日目に予防投与した25例中17例が発症した。
250	イトラコナゾール	健常人11例を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、イトラコナゾールとフェキソフェナジンの併用時の薬物動態を検討したところ、フェキソフェナジンのAUC,Cmaxが増加することが示唆された。
251	硫酸イソプロテレノール・臭化メチルアトロピン配合剤	本剤の成分であるデキサメタゾンを早産児に投与すると、学齢期に行動発達や神経運動発達の低下が見られることが示唆された。
252	エストラジオール	コホート研究による乳癌組織型別解析において、エストロゲン・プロゲストゲン併用療法だけでなく、エストロゲン単独療法においても多くの組織型で乳癌発症リスクが上昇することが示唆された。
253	ホリナートカルシウム	食道癌、胃癌、膵癌に対するCisplatin/Fluorouracil/Leucovorin併用療法により2例が好中球減少性敗血症、1例が腎不全、1例が重度の下痢で死亡した。
254	スルファメトキサゾール・トリメトプリム	全身性エリテマトーデス患者51例を対象としたコホート研究において、N-acetyl-transferase 2遺伝子のslow acetylatorsでは副作用発現が有意に高頻度であることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
255	リファンピシン	腎同種移植患者8例を対象としたプロスペクティブオープンラベル非無作為化比較試験において、リファンピシンがミコフェノールのグルクロン酸抱合や排泄に影響を与えることが示唆された。
256	アミノフィリン	食道や噴門の原発腫瘍のある患者において、アミノフィリン暴露によって食道腺癌発症リスクが高まることが示唆された。
257	ジクロフェナクナトリウム	NSAID(ロフェコキシブ、セレコキシブ、イブプロフェン、ナプロキセン、ジクロフェナク)の処方記録から、処方回数による急性心筋梗塞の発症リスクを検討したところ、ジクロフェナクを10-19回、20回処方された群は、1回のみの処方群より相対リスクの上昇が見られた。
258	ベンフォチアミン, リボフラビンリン酸エステルナトリウム, ピリドキシン塩酸塩, ニコチン酸アミド, ニンジンエキス, ショウキョウエキス, タイソウエキス, ローヤルゼリー抽出液	本剤服用後薬疹があり、2日後に病院を受診し即入院した、急性汎発性発疹膿胞症の疑いのある1例が報告された。